



10月 熊本市 感染症発生動向調査 速報



●インフルエンザについて

日本でのインフルエンザの流行は主に冬ですが、1年を通して世界のどこかでインフルエンザの流行は発生しています。日本でも、世界的大きなイベントが多数あり、人の往来の増加に伴い流行時期に限らず様々な感染症が発生すると思われますので、引き続き感染予防に努めましょう。

今年は全国的に少し早くからインフルエンザの流行がみられ熊本市でも2件の学級閉鎖がありました。インフルエンザの予防接種は、発症する可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。

<インフルエンザの予防対策>

- ★流行前の**ワクチン接種**。
- ★飛沫感染対策としての**咳エチケット**。
- ★**手洗い**の徹底。
- ★適度な湿度の保持。
- ★十分な休養とバランスのとれた栄養摂取。
- ★人混みや繁華街への外出を控える。



【インフルエンザと風邪の違い比較表】

	インフルエンザ	風邪
一般的な症状	38度以上の発熱 ※インフルエンザであっても、熱が出ない人もいます。	発熱
	全身症状（頭痛、関節痛、筋肉痛など）	
	局所症状（のどの痛み、鼻水、くしゃみ、咳など）	局所症状（のどの痛み、鼻水、くしゃみ、咳など）
	急激に発症	比較的ゆっくり発症

<重症化する危険が高い人>

- ★高齢者★乳幼児★妊娠中の女性★持病のある方（喘息・慢性呼吸器疾患（COPD）・慢性心疾患・糖尿病など代謝性疾患）など



出典：厚生労働省ホームページ、首相官邸ホームページ

期 間		2019年 40週		2019年 41週	
		9/30～10/6		10/7～10/13（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		16	0.64	27	1.08
RSウイルス感染症		29	1.81	24	1.50
咽頭結膜熱（プール熱）		5	0.31	8	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		26	1.63	27	1.69
感染性胃腸炎		42	2.63	59	3.69
水痘（みずぼうそう）		2	0.13	0	0.00
手足口病		9	0.56	11	0.69
伝染性紅斑（りんご病）		5	0.31	17	1.06
突発性発しん		6	0.38	7	0.44
ヘルパンギーナ		5	0.31	10	0.63
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		3	0.19	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）		27	5.40	19	3.80
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		1	0.20	0	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0	0.00	0	0.00